

優秀賞

「石川赤崎福地川沿いの景観について ～港区グリーンゆがふ会のなりたち～」

仲里 正義 (うるま市港区自治会 港区グリーンゆがふ会 会長)
石川 芳枝 (うるま市港区自治会 書記)

1. はじめに

うるま市石川赤崎地域北東側を流れる“福地川”は、石川岳の麓から金武湾へと続く浅い川である(図1)。その川べりは、一昔前まで一面身の丈ほどのススキや雑草が繁茂し、空き缶やペットボトル、自転車、タイヤ、布団他、家庭から出る電化製品等の不法投棄があった(図2)。約12年前の平成19年頃、この現状をどうにかしたいとのみんなの思いが、清掃活動に繋がり区民協力のもと、およそ1年がかりでススキの伐採に取り組んだ。これを機に平成20年「港区グリーンゆがふ会」が発足した。現在、会長を中心に福地川沿いの環境美化に取り組んでいる。以前の状況からは、想像できないほど様変わりし、花々が咲き誇る季節は絶好の散歩コースとなっている(図3)。



図1. 福地川



図2. 平成19年頃
ススキや雑草が繁茂している



図3. 現在
サンダンカを植栽

2. 地域の特徴

石川港区は、本島ほぼ中央部の最もくびれた部分の金武湾に面した位置にあり、河口の橋を境に、北側赤崎地域と、南側白浜地域に分かれている(図4)。赤崎地域は金武町と隣接し、沖縄自動車道石川インターチェンジがあり国道329号線が通る交通量の多い場所である。また、赤崎地域はほとんどが埋め立てによる新興地域で、大手企業10社が点在し、今なおイベントを通して一部企業との地域交流が行われている。

集会所(公民館)は赤崎地域にあり、区民活動の拠点となっている。



図4. うるま市石川港区の位置

3. 港区グリーンゆがふ会について

1) 組織 港区自治会傘下(図5)

(1) 会長 仲里正義

ア 期間 平成20年4月就任～現在に至る

(2) 会員 地域ボランティア28名

ア 年齢は全員60歳以上

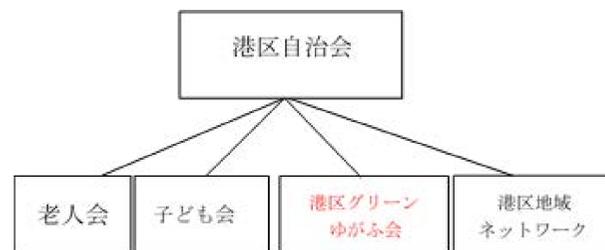


図5. 港区自治会およびその傘下組織

2) 活動

(1) 日時 毎月第3日曜日 午前9時～11時

(2) 内容 季節の花植え、草取り、せん定等の清掃活動(図6)



図6. 清掃活動

3) 状況

- (1) 長期的景観が楽しめる市花のサンダンカを約200メートルにわたり植栽している。
- (2) 季節の花(キンセンカ、インパチェンス、コスモス、ひまわり等)を植栽している(図7)。
- (3) 通りに面した一角に、蝶園を設置。日本一大きな蝶・オオゴマダラの生態を観察することができる(図8)。

4) 予算

- (1) 自治会より2~3万円/年
- (2) うるま市種苗資材等支給申請に基づく補助
ア 平成21年度より実施継続中



図7. キンセンカの植栽



図8. 飛び交うオオゴマダラ

4. 功績

1) 表彰

- (1) 平成30年10月 第4回うるま市景観賞受賞(図9)
ア 同年、広報うるま12月号に掲載
- (2) 平成31年4月 第7回中部広域花と緑のまちづくりコンクール優秀賞受賞
ア 同年、4月5日 沖縄タイムス掲載
- (3) 令和元年5月 港区自治会総会において会長功労賞授与



図9. うるま市景観賞を受賞

5. 地域への周知について

1) 広報

- (1) 毎月発行の自治会便りで、花期の状況、景観を写真掲載で適時行う。

2) 啓発活動

- (1) 平成22年1月 港区新年会にて第1弾ウチナーグチ寸劇を披露
演題:「港区グリーンゆがふ会のなりたち」
- (2) 平成28年1月 港区新年会にて第2弾ウチナーグチ寸劇を披露(図10)
演題:「港区グリーンゆがふ会のなりたちとその後」
- (3) 平成31年1月 港区新年会にて映像紹介
演題:「福地川沿いの景観について」



図10. ウチナーグチ寸劇を用いた啓発活動

6. 成果

- 1) 全長約200mの福地川沿いの景観が素晴らしくなり、サンダンカの花盛りには、花が葉を埋め尽くすほど見事に咲き誇る様は圧巻である。また、その時期に訪れる区民が増え地域の話題ともなる。
- 2) 平成29年に設置した、手づくりのオオゴマダラ蝶園では、金色のサナギが羽化するまでの生態が観察でき、道行く人を楽しませている。特に子ども達にとって人気の場所となっている。
- 3) ウチナーグチ寸劇で「港区グリーンゆがふ会のなりたち」と題して、一連の本活動を取り上げた。その結果、区民の景観に対する意識が高まり、身近な問題として関心を持つようになった。

7. 課題

1) 会員

現在会員のほとんどが70代～80代の高齢者で、体力的に厳しい面がある。定例清掃日は毎月第3日曜日に設定しているが、自主参加のため限られた会員だけが協力している。また、清掃日を忘れることがあり、一人ひとりの参加確認に時間を要する。

2) 景観

福地川沿いは、未だ一部、荒地が残っている。美しく整地されたサンダンカと対照的な景観である。そのため荒地の存在が目立つ(図11)。



図11. 対照的な景観

左: 美しく整地されたサンダンカ、右: 国道329号線に隣接する荒地

8. 今後の取り組み

1) 方法

(1) 会員に対する

ウチナーグチ寸劇は、区民から大いに期待されているため、方言劇による啓発を続けていく。

方言劇第3弾「港区グリーンゆがふ会のなりたち」は若年層への参加を呼びかけ、現会員の負担軽減を図るとともに、若い世代の会員加入へと繋げていく。

(2) 景観に対する

国道329号線へ隣接する荒地は、現在整地に向けて取組中である(図12)。今後、行政と連携して良好な景観をめざして緑化に繋げていく。



図12. 国道329号線へ隣接する荒地の緑化に向けた取り組み

2) 展望

赤崎地域は、比較的住宅の緑が多く住みやすい地域である。

また、毎年12月に開催される港区菊愛好家による菊花展は、訪れる多くの区民を楽しませている。

今後、福地川沿いの景観とともに、花と緑あふれるまちづくりを推進していきたい。



図13. 上下段に植栽されたサンダンカ



図14. 港区菊花展(平成28年12月)